

令和4年度 指定管理施設運営状況中間評価表

1. 施設の概要

施設の名称	むつ市早掛レイクサイドヒルキャンプ場		
指定管理者	団体名	むつ商工会議所	
	代表者	会頭 内田 大輔	
	所在地	むつ市小川町2-11-4	
指定期間	平成31年 4月 1日 ~ 令和 6年 3月 31日 (5年間)		
指定管理業務の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・市民が自然とふれあい、心身の健康増進を図るため、市民参加型のイベントを実施し地域住民が交流しながら自然と親しむ場を提供する事業。 ・周遊型観光の促進を図るため、観光施設の案内、観光情報の発信、地場製品のPRを積極的に実施し観光客のリピーター化の促進を図る事業。 ・常に清潔・安全・快適な施設を提供するための維持管理業務。 		

2. 収支の状況 ※消費税及び地方消費税を含んだ額を計上すること。自主事業分は含まないこと。

※原則として他会計からの繰入金及び他会計への繰出金は含まないこと。

※人件費には、經常の指定管理業務にかかる人件費のみを記載し、臨時的な日雇い雇用などの賃金を含まないこと。

単位：千円

区 分	年間計画額 ①	上半期実績額 ②	増 減 (②-①)
収入合計 (A)	10,895	10,924	29
うち利用料金額	3,360	3,664	304
うち指定管理料	7,260	7,260	0
支出合計 (B)	10,895	7,076	△3,819
うち人件費	3,056	1,528	△1,528
収支差 (A-B)	0	3,848	△3,848
市への納入金			
計画額と比較した実績額の増減理由			

3. 施設利用の状況

単位：人

	区 分	年間計画 ①	上半期実績 ②	増 減 (②-①)
利用者数	有料利用者	5,600	3,985	△1,615
	無料利用者	900	305	△595
利用者の声とその対応状況 ※利用者アンケートの実施(有・無) テントの大型化に伴う混雑時のテントの張り方や、多人数の利用者の騒音に対する苦情が寄せられた。 受付時に遵守事項を記した注意書きを配布し、また見回りを強化した。				

4. 自主事業の実施状況

単位：人、千円

事業名	利用者数	収 入	支 出
オープンイベント(無料開放)	110	0	0
BBQ祭り	125	149	243
利用促進キャンペーン	4件		4

5. 個別項目評価 ※指定管理者と市の所管課が評価

評価基準 A（優良）：計画された業務水準を大きく超える、独自の取組を実施するなど、特にめざましい成果をあげることが見込まれる。

B（適正）：適正に指定管理業務を行っており、計画された業務水準を達成できることが見込まれる。

C（要改善）：指定管理業務の一部に課題があると認められ、改善の余地がある。

評価項目	自己評価	市の評価
(1) 施設設置目的に添ったサービス向上に関する取組み状況		
①開館時間、休館日等を守り、施設利便性の確保に努めたか。	B	B
②施設の使用許可、使用料減免等が適正、円滑に行われたか。	B	B
③利用者に対する接客マナー等、職員の勤務態度は適正だったか。	B	B
④利用者の意見を聴取し、それらを反映する取組みを行ったか。	B	B
(2) 利用促進に関する取組み状況		
①施設利便性を高める努力を行い、効果が得られたか。	B	B
②潜在的な利用者等に営業広報活動を行い、利用アピールをしたか。	B	B
③自主事業を企画・実施し、効果が得られたか。	B	B
(3) 効率性の向上に関する取組み状況		
①施設管理経費を低減するための取組みを行い、効果があったか。	B	B
②収入増を図るための取組みを行い、効果があったか。	B	B
③職員の資質・能力向上を図る取組みがされたか。	B	B
(4) 施設の適正な維持・管理に関する取組み状況		
①施設の維持管理、運営に当たる人員配置は適正であったか。	B	B
②設備・備品の維持管理及び修繕が適切に行われたか。	B	B
③労働関係法令等を遵守し、適正な管理を行ったか。	B	B
④利用料金の収受及び施設管理経費の支出は適正であったか。	B	B
(5) 平等利用、安全対策、危機管理等に関する取組み状況		
①利用者が平等に利用できるよう施設利用情報提供に配慮したか。	B	B
②日常の事故防止等の安全対策は適切であったか。	B	B
③防犯、防災対策等の危機管理体制は適切であったか。	B	B
④利用者の個人情報保護は徹底されていたか。	B	B

6. 指定管理者総合評価 ㊤自己評価をAとした項目の内容及びCとした項目についての改善策を記載すること。

場内樹木の剪定や伐採、管理棟・ケビンハウス・炊事場等の塗装作業を行い環境の整備に努めた。

7. 市の所管課総合評価 ㊤市の評価をCとした項目についての指導内容も記載すること。

令和4年度においても新型コロナウイルスの終息に至らずない中、市の新型コロナウイルス対策の指針をふまえ、臨機応変に対応していた。

利用促進を図るための自主事業の実施や、場内の環境整備を職員自らが行うなど管理経費の削減への取り組みは評価できる。

キャンプ需要は、更に増加傾向にあることから利用者名簿の適切な管理など感染症対策を強化しつつ県内外への情報発信を強化し、当該施設の認知度向上を図り、観光誘客の増加に努めて欲しい。